

学則の変更の趣旨等を記載した書類

(1) 学則変更（収容定員変更）の内容

令和5年4月1日より情報科学部情報科学科の入学定員80人を70人増加（うち20人は教育学部からの振替）し150人にする。これにより収容定員は、情報科学部330人から610人となる（編入学定員5人は変更しない）。

	変更前（令和4年4月）			変更後（令和5年4月）		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
情報科学部	80	5	330	150	5	610

(2) 学則変更（収容定員変更）の必要性

広島県では、中核的産業である製造業を筆頭に、あらゆる分野でデジタル化が進展する中で、企業の構造転換が迫られ、県内でのデジタル人材の確保が求められているのが現状である。広島県の調査によると、100人以上の事業所の70.8%が、「デジタル人材の育成・確保ができていない」と回答しており、データの扱いに精通した人材やデジタル活用人材等について、「新卒採用により獲得したい」という強い要請がある。また、規模別にみると、100人以上規模で41団体、10人から100人規模で92団体が新卒採用を行うこととしており、前者が毎年採用、後者が3年ごとに採用を行うと仮定しても、毎年50人を超える採用規模が確認できる。今回の調査の回収率が18.4%であることや、地元産業界のヒアリング等から、やや控えめにみても、今回の定員増の3倍から4倍の新卒採用のニーズが十分に見込まれると考えている。本学でも人材需要についてヒアリングを行ったところ、広島県の中核企業であるマツダ(株)や県内に本社を置く流通大手の(株)イズミ等もデジタル人材の採用に積極的である。

本学は、平成30年度に国立大学で初の情報科学部（インフォマティクスとデータサイエンスの2コース）を、全学からの専任教員の配置換え31人、学生定員の振替80人により新設した。令和4年度から「AI戦略2019」や産業界において要請されている人材ニーズを踏まえ、計算機科学プログラム、データ科学プログラム、知能科学プログラムの3プログラム制に教育課程を見直し、知能科学分野を有する全国唯一の3プログラム制を導入した。これにより、情報科学における専門分野を体系的に修めるとともに、横断的スキルを身に付ける教育課程を通じて、高度産業DX推進人材を育成する。

「デジタル田園都市国家構想」を推進するために、全国的にデジタル化、特にDXの必要性が

急速に高まる中、令和5年度から、「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増50人」及び「現員80人に学内振替20人を加えた定員100人」の合計150人により「高度産業DX推進人材」の育成を加速し、広島地方創生に資する50人以上の人材を輩出する。高度産業DX推進人材を育成し、地域の産業界において産業DXを牽引する中核人材を継続的に輩出することで、地域におけるデジタル人材のエコシステムを構築し、最終的には地域経済の成長と若者の雇用創出に繋がることを期待できる。

(3) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

ア 教育課程の変更内容

令和4年度から2コース制（インフォマティクスコース、データサイエンスコース）を廃止し、新たに「計算機科学プログラム」、「データ科学プログラム」、「知能科学プログラム」から構成される3プログラム制に移行した。学生は2年次からプログラムを選択することで早い段階から専門分野の学修を開始することができるようになった。一方で、地方創生に資する高度産業DX推進人材を輩出するため、地域の課題解決に関連する多くの、専門知識やスキルを身に付けさせる必要があることから、以下に示す科目を増設する。

ベイズ統計、意思決定、IoT概論、スパース推定、品質管理、機械学習、
認知科学（記号論的AI）、組み込みシステム、ソフトウェア工学II、医用情報学、
バイオインフォマティクス、音声認識、神経回路網、強化学習、テキストマイニング

魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増及び学内措置による定員増を通して70名の学生が増えることになり、学生の興味の多様性に応じて各プログラム内での教育内容を補強することは必要不可欠となる。また、令和4年度から実践・実務科目（情報処理と産業、データ科学とマネジメント、情報科学の最前線、プロジェクト研究、長期フィールドワークI、II）を導入し、情報科学に関する高等教育を産学官金で連携する取り組みを開始しており、データ科学及び知能科学分野における産業界の最新動向に触れる機会を設けている。

これにより、定員150人に、情報科学における広範な専門教育を提供し、地域産業界において要請される多様な人材需要にも対応する。

「情報処理と産業」は、地元企業7社から講師を招へいし、各産業分野及び企業において実践されているデジタル技術の概要やDX取組の現状について講義を行い、地域産業界の魅力を学生にわかりやすく解説する。「データ科学とマネジメント」と併せて、合計14企業におけるオムニバス講義を実施し、産学官金連携に基づいた実務教育を拡充する。「情報科学の最前線」は、国内の大学、研究所等で活躍する著名研究者による情報科学分野の先端技術動向についての講義を行

う。「プロジェクト研究」は、夏季休業中に開催される短期インターンシップ型講義であり、企業に1週間滞在し、研究開発プロジェクトに参加することで、産業界において必要とされる知識やスキルを学ぶ。令和4年度は担当企業1社（受入学生数の上限18人）であるが、令和5年度からは協力企業数を増やし、令和6年度に3社、令和10年度に10社の参画を予定している。

後述する「実践履修モデル」を選択した学生に対して「長期フィールドワーク I, II」を3、4年次に開講する。この科目は、卒業論文に代えて必修とし、各4か月間の計8か月、企業に滞在し、実際に産業界で実施されている研究・開発プロジェクトに参加することで、産業DXを牽引する中核人材として必要とされる知識やスキルを学ぶことを目的としている。その特徴はコーオペ教育と呼ばれる長期有償インターンシップ制度に基づいており、経済的に不安定な学生も勉学に専念することができるよう配慮するとともに、企業、大学が相互にリソースを持ち寄りながら、共同で高度産業DX推進人材の育成を行う。令和6年度には担当企業3社程度で開始する予定であり、令和10年度には5社まで増やす計画である。

イ 教育方法及び履修指導方法の変更内容

令和4年度からは、学生は2年次に学問領域による分類としてプログラムを選択し、3年次に「履修モデル」を選択する。「履修モデル」とは、学生ひとりひとりが将来のキャリアパスを見据えた上で、授業科目の履修方法を選択する仕組みである。情報科学部では、「基礎履修モデル」、「融合履修モデル」、「実践履修モデル」を開講している。「基礎履修モデル」では、従前までの本学部での履修方法と同様に、必修もしくは選択必修指定された専門科目を履修し、学部教育の総仕上げとして卒業論文（必修）を完成することで、デジタルの知識やスキルを用いて広く社会で活躍する素地を身に付けることを目標にしている。「融合履修モデル」では、情報科学部の専門科目を履修すると同時に、3年次から本学の他11学部で開講されている専門科目の履修や情報科学部教員と他学部教員による協働の研究指導を通じ、経済、工学、生物生産のような、他分野においてデジタルの知識やスキルを活用することができる、幅広い世界で活躍する能力をもった人材を育成する。「実践履修モデル」では、卒業論文に代えて、3年次と4年次の各4か月間、企業の研究・開発プロジェクトに参加することで、産業界で求められている知識やスキルを修得し、卒業後に社会で即戦力になる実務能力を持った人材を育成する。

ウ 教育組織の変更内容

令和5年度当初は、情報科学部の専任教員は37人（教授21人、准教授11人、講師1人、助教4人）であり、計算機科学プログラム13人、データ科学プログラム13人、知能科学プログラム11人が各プログラムの主担当である。定員増に伴い、専門科目を増やすことで、実施する専門科目を充実させるため、令和8年度における専任教員は43人とする。令和4年までの情報科学部学部学生定員は330人であり、教員37名に対して1人当たりの学生数は8.9人であった。一方、定員増後の令和8年度には学部定員610名に対し教員数は43名であり、教員1人当たりの学生

数は14.2人となる。しかしながら、オンライン講義の普及もあり、学生数の増加により講義負荷が極端に高まることはない。4年次の卒業論文指導に関しては、現在、教員1人当たりの指導学生数が2人であるのに対し、令和8年には教員1人当たりの指導学生数が3人と微増するだけに留まることが確認できる。

エ 大学全体の施設・設備の変更内容

入学定員を80人から150人に増員することに伴い、講義室の確保、追加雇用教員の研究・教育スペース、学部生及び大学院進学後の学生居室の確保が必要となる。平成30年度に設置した情報科学部では、学内措置により他学部から入学定員及び担当教員を再配分したため、東広島キャンパス内における工学部、総合科学部で使用されていた教育・研究スペースを改修することで対応した。この度の魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増50人及び教育学部からの定員振替20人分に対しては、工学部、総合科学部、情報科学部及び情報メディア教育研究センターの教育・研究スペースを確保することで、対応する。また、情報科学の学問分野の特性から、オンライン講義を活用することで、教育・研究の質を担保する。

教育課程等の概要															
(情報科学部情報科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
平和科目	平和を考える	1②		2		○								兼1	
	平和と人権ーグローバル化とジェンダー視点	1②		2		○								兼1	
	国際政治と地球環境から見る平和	1②		2		○								兼1	
	戦争と平和に関する学際的考察	1②		2		○								兼1	
	Global Issues Towards Peace B	1②		2		○								兼1	
大学教育基礎科目	大学教育入門	1①	2			○			1						
	共用ゼミ	1①	2				○		4	1		1			
領域科目	(人文社会科学系)	日本国憲法	1①②③④		2		○							兼1	
		心理学概論A	1①②③④		2		○							兼1	
		心理学概論B	1①②③④		2		○							兼1	
		行動の科学	1①		2		○							兼1	
		睡眠の科学	1①②③		2		○							兼1	
		ヨーロッパ史A	1①		2		○							兼1	
		文化人類学A	1①②		2		○							兼1	
		文化人類学B	1③④		2		○							兼1	
		日本史B	1①		2		○							兼1	
	日本現代史	1③		2		○							兼1		
	(自然科学系)	物理の視点B	1③④		2		○							兼1	
		環境と化学	1④		2		○							兼1	
		分子から生命へ	1②③		2		○							兼1	
		脳と行動	1②		2		○							兼1	
微生物の世界		1①		2		○							兼1		
水・物質循環の科学	1③		2		○							兼1			
自然環境形成論	1②③		2		○							兼1			
共通科目	英語	コミュニケーション基礎	1①②	1			○							兼1	
		コミュニケーション基礎II	1③④	1			○							兼1	
	コミュニケーションI	コミュニケーションI A	1①②	1			○							兼1	
		コミュニケーションI B	1①②	1			○							兼1	
	コミュニケーションII	コミュニケーションII A	1③④	1			○							兼1	
		コミュニケーションII B	1③④	1			○							兼1	
	外国語科目	初修外国語	ベーシック・ドイツ語I	1①		1		○							兼1
			ベーシック・ドイツ語II	1②		1		○							兼1
			ベーシック・フランス語I	1①		1		○							兼1
			ベーシック・フランス語II	1②		1		○							兼1
ベーシック中国語I			1①		1		○							兼1	
ベーシック中国語II			1②		1		○							兼1	
ベーシック・スペイン語I			1①		1		○							兼1	
ベーシック・スペイン語II			1②		1		○							兼1	
ベーシック・ロシア語I			1①		1		○							兼1	
ベーシック・ロシア語II			1②		1		○							兼1	
ベーシック韓国語I			1①		1		○							兼1	
ベーシック韓国語II			1②		1		○							兼1	
ベーシック・アラビア語I			1①		1		○							兼1	
ベーシック・アラビア語II			1②		1		○							兼1	
情報・データサイエンス科目	情報・データ科学入門	1②	2			○	※						兼1	講義：演習=3：2	
	ゼロからはじめるプログラミング	1③	2			○					1				
健康スポーツ科目	スポーツ実習A	1①②③④		1				○						兼1	
	健康スポーツ科学	1①②③④		2			○							兼1	
基礎科目	微分積分通論	1①		2		○			1						
	数学演習I	1③		1			○			1					
	数学演習II	1④		1			○			1					
	微分積分学I	1②	2			○			1						
	微分積分学II	1③	2			○			1						
	線形代数学I	1①	2			○			1						
	線形代数学II	1③	2			○			1						
小計 (55科目)	—	22	65	0	—	—	—	7	2		1		兼31		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	離散数学I	1②	2			○						1			
	離散数学II	1③	2			○			1						
	プログラミング I	1前	2				○		1	1		1			オムニバス
	プログラミング II	1後	2				○		1	1		1			オムニバス
	プログラミングIII	2前	2				○		2			1			オムニバス
	プログラミングIV	2後	2				○			1		1			オムニバス
	オートマトンと言語理論	2①		2		○			1						
	デジタル回路設計	2③		2		○			1						
	プログラミング言語	2④		2		○			1						
	アルゴリズムとデータ構造	2③		2		○			1						
	確率論基礎	1④	2			○			1						
	推測統計学	2①		2		○			1						
	線形モデル	2②		2		○				1					
	統計的検定	2②		2		○				1					
	確率モデリング	2④		2		○			1						
	数値計算	2④		2		○			1						
	数理解画法	2①		2		○								兼1	
	システム最適化	2③		2		○			1						
	数理解析	2②		2		○						1			
	多変量解析	2③		2		○			1						
	カテゴリーカル・データ分析 (CDA)	2②		2		○				1					
	プログラムが動く仕組み	2④		2		○			1						
	オペレーティングシステム	2③		2		○			1						
	データベース	2④		2		○			1						
	情報理論	2①		2		○				1					
	実用英語 I	3①	1				○		1						
	実用英語 II	3③	1				○		2						
	情報科学演習 I	3①	1				○			1		1			オムニバス
	情報科学演習 II	3②	1				○				1	1			オムニバス
	情報科学演習 III	3③	1				○			1					オムニバス
	情報科学演習 IV	3④	1				○		1						オムニバス
	ソフトウェア工学 I	3②		2		○			1						
	計算理論	3①		2		○			1						
	画像処理	3②		2		○				1					
	ビジュアルコンピューティング	3③		2		○			1						
	人工知能概論	2③		2		○			1						
	計算機ネットワーク	3④		2		○			1						
	ヒューマンコンピュータインタラクション	3③		2		○			1						
	並列分散処理	3③		2		○			1					兼1	集中
	ソフトウェアマネジメント	3②		2		○			1					兼1	集中
	自然言語処理	3②		2		○			1						
	情報社会とセキュリティ	3②		2		○			2	1					
	デジタル信号処理	3①		2		○						1			
	データマイニング	3①		2		○			1						
	サーバイ・デザイン	3①		2		○								兼1	
	ノンパラメトリック解析	3②		2		○								兼1	
	ビッグデータ	3④		2		○	※			1					講義：演習=2：1
	行動計量学	3①		2		○					1				
	計量経済学	3②		2		○			1						
	時系列分析	3③		2		○		※						兼1	講義：実習=2：3 講義：実習=3：1
	生物・医療統計	3④		2		○		※		1					
	確率過程論	3④		2		○				1					
	フィンテック	3④		2		○			1						
	ソフトウェア工学 II	3③		2		○						1			
	品質管理	3①		2		○				1					
	意思決定	2④		2		○				1					
	組み込みシステム	3③		2		○			1						
	IoT概論	3②		2		○						1			
	ベイズ統計	2③		2		○				1					
	スパース推定	3①		2		○			1						
	テキストマイニング	3③		2		○			1						
	医用情報学	3④		2		○						1			
	バイオインフォマティクス	3③		2		○						1			
	認知科学 (記号論的AI)	3①		2		○			1						
	機械学習	3②		2		○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	音声認識	3④		2		○			1						
	神経回路網	3③		2		○		1							
	強化学習	3④		2		○			1						
	計算機科学セミナーⅠ	4①		1			○	10	1			3			
	計算機科学セミナーⅡ	4②		1			○	10	1			3			
	データ科学セミナーⅠ	4①		1			○	5	7	1		1			
	データ科学セミナーⅡ	4②		1			○	5	7	1		1			
	知能科学セミナーⅠ	4①		1			○	7	5			2			
	知能科学セミナーⅡ	4②		1			○	7	5			2			
	小計(74科目)	—	20	116	0	—	—	23	13	1	6	0	兼10		
卒業論文	4後		3			○	22	13	1	6	0				
小計(1科目)	—	0	3	0	—	—	22	13	1	6	0	0			
実践・実務科目	情報処理と産業	2①		2		○								兼7	
	データ科学とマネジメント	2③		2		○								兼7	
	情報科学の最前線	3①		2		○								兼8	
	プロジェクト研究	3②		2							○			兼7	
	長期フィールドワークⅠ	3後		3							○			兼3	
	長期フィールドワークⅡ	4後		3							○			兼3	
小計(6科目)	—	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼35		
合計(136科目)		—	42	198	0	—	—	23	13	1	6	0	兼76		
学位又は称号		学士(情報科学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法															
<p>本学部の卒業要件は、本学部に原則4年以上在学し、かつ125単位を取得することとする。</p> <p>■教養教育科目(38単位以上) 平和科目から2単位以上、大学教育基礎科目から4単位(「大学教育入門」2単位、「教養ゼミ」2単位)、領域科目から8単位以上(人文社会科学系科目群から4単位以上、自然科学系科目群から4単位以上)、外国語科目から8単位以上(英語6単位以上(コミュニケーション基礎2単位、コミュニケーションⅠ2単位、コミュニケーションⅡ2単位)、初修外国語2単位以上(ドイツ語、フランス語、中国語、アラビア語、韓国語、スペイン語、ロシア語のうちから1言語選択2単位))、情報・データサイエンス科目4単位、健康スポーツ科目2単位以上、基礎科目10単位以上(「微積分通論」、「数学演習Ⅰ」、「数学演習Ⅱ」のうちから2単位以上、「微積分学Ⅰ」2単位、「微積分学Ⅱ」2単位、「線形代数学Ⅰ」2単位、「線形代数学Ⅱ」2単位)</p> <p>■専門教育科目(87単位以上) ○計算機科学プログラム 必修科目31単位(実践履修モデルは34単位) (「離散数学Ⅰ、Ⅱ」、「プログラミングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「オートマトンと言語理論」、「デジタル回路設計」、「アルゴリズムとデータ構造」、「確率論基礎」、「実用英語Ⅰ、Ⅱ」、「情報科学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「計算機科学セミナーⅠ、Ⅱ」、「卒業論文(※1)」、「長期フィールドワークⅠ、Ⅱ(※1)」) (※1)実践履修モデルを選択した学生は、卒業論文の代わりに「長期フィールドワークⅠ、Ⅱ」を必修とする。基礎履修モデル及び融合履修モデルを選択した学生は、「卒業論文」を必修とし「長期フィールドワークⅠ、Ⅱ」は履修することができない。</p> <p>選択必修科目42単位以上(実践履修モデルは39単位以上) (専門科目38単位以上(実践履修モデルは35単位以上)(「プログラミング言語」、「数値計算」、「数理計画法」、「システム最適化」、「数理解析」、「プログラムが動く仕組み」、「オペレーティングシステム」、「データベース」、「情報理論」、「ソフトウェア工学Ⅰ」、「計算理論」、「画像処理」、「ビジュアルコンピューティング」、「人工知能概論」、「計算機ネットワーク」、「ヒューマンコンピュータインタラクション」、「並列分散処理」、「ソフトウェアマネジメント」、「自然言語処理」、「情報社会とセキュリティ」、「デジタル信号処理」、「ベイズ統計」、「意思決定」、「IoT概論」、「スパース推定」、「品質管理」、「機械学習」、「認知科学(記号論的AI)」、「組み込みシステム」、「ソフトウェア工学Ⅱ」、「医用情報学」、「バイオインフォマティクス」、「音声認識」、「神経回路網」、「強化学習」、「テキストマイニング」)、実践・実務科目4単位以上(「情報処理と産業」、「データ科学とマネジメント」、「情報科学の最前線」、「プロジェクト研究」) (※2)融合履修モデルを選択した学生は、他学部で開講される20単位を選択必修科目の単位として読み替えることができる。</p> <p>自由選択科目(修了要件として14単位まで算入可)</p> <p>○データ科学プログラム 必修科目31単位(実践履修モデルは34単位) (「離散数学Ⅰ、Ⅱ」、「プログラミングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「確率論基礎」、「推測統計学」、「線形モデル」、「統計的検定」、「実用英語Ⅰ、Ⅱ」、「情報科学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「データ科学セミナーⅠ、Ⅱ」、「卒業論文(※1)」、「長期フィールドワークⅠ、Ⅱ(※1)」) (※1)実践履修モデルを選択した学生は、卒業論文の代わりに「長期フィールドワークⅠ、Ⅱ」を必修とする。基礎履修モデル及び融合履修モデルを選択した学生は、「卒業論文」を必修とし「長期フィールドワークⅠ、Ⅱ」は履修することができない。</p>															
1学年の学期区分				2期(4ターム)											
1学期の授業期間				15週											
1時限の授業時間				90分											

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p>選択必修科目42単位以上(実践履修モデルは39単位以上) (専門科目38単位以上(実践履修モデルは35単位以上) (「プログラミング言語」, 「アルゴリズムとデータ構造」, 「確率モデリング」, 「数値計算」, 「数理計画法」, 「システム最適化」, 「数理解析」, 「多変量解析」, 「カテゴリーカル・データ分析 (CDA)」, 「ソフトウェア工学 I」, 「人工知能概論」, 「データマイニング」, 「サーベイ・デザイン」, 「ノンパラメトリック解析」, 「ビッグデータ」, 「行動計量学」, 「計量経済学」, 「時系列分析」, 「生物・医療統計」, 「確率過程論」, 「フィンテック」, 「ベイズ統計」, 「意思決定」, 「IoT概論」, 「スパース推定」, 「品質管理」, 「機械学習」, 「認知科学 (記号論的AI)」, 「組み込みシステム」, 「ソフトウェア工学 II」, 「医用情報学」, 「バイオインフォマティクス」, 「音声認識」, 「神経回路網」, 「強化学習」, 「テキストマイニング」), 実践・実務科目4単位以上 (「情報処理と産業」, 「データ科学とマネジメント」, 「情報科学の最前線」, 「プロジェクト研究」) (※2) 融合履修モデルを選択した学生は, 他学部で開講される20単位を選択必修科目の単位として読み替えることができる。</p>														
<p>自由選択科目 (修了要件として14単位まで算入可)</p>														
<p>○知能科学プログラム 必修科目31単位(実践履修モデルは34単位) (「離散数学 I, II」, 「プログラミング I, II, III, IV」, 「アルゴリズムとデータ構造」, 「確率論基礎」, 「推測統計学」, 「線形モデル」, 「実用英語 I, II」, 「情報科学演習 I, II, III, IV」, 「知能科学セミナー I, II」, 「卒業論文 (※1)」, 「長期フィールドワーク I, II (※2)」) (※1) 実践履修モデルを選択した学生は, 卒業論文の代わりに「長期フィールドワーク I, II」を必修とする。基礎履修モデル及び融合履修モデルを選択した学生は, 「卒業論文」を必修とし「長期フィールドワーク I, II」は履修することができない。</p>														
<p>選択必修科目42単位以上(実践履修モデルは39単位以上) (専門科目38単位以上(実践履修モデルは35単位以上) (「オートマトンと言語理論」, 「デジタル回路設計」, 「プログラミング言語」, 「統計的検定」, 「数値計算」, 「数理計画法」, 「システム最適化」, 「数理解析」, 「多変量解析」, 「プログラムが動く仕組み」, 「オペレーティングシステム」, 「データベース」, 「情報理論」, 「ソフトウェア工学 I」, 「画像処理」, 「ビジュアルコンピューティング」, 「人工知能概論」, 「計算機ネットワーク」, 「ヒューマンコンピュータインタラクション」, 「自然言語処理」, 「情報社会とセキュリティ」, 「デジタル信号処理」, 「データマイニング」, 「ビッグデータ」, 「ベイズ統計」, 「意思決定」, 「IoT概論」, 「スパース推定」, 「品質管理」, 「機械学習」, 「認知科学 (記号論的AI)」, 「組み込みシステム」, 「ソフトウェア工学 II」, 「医用情報学」, 「バイオインフォマティクス」, 「音声認識」, 「神経回路網」, 「強化学習」, 「テキストマイニング」), 実践・実務科目4単位以上 (「情報処理と産業」, 「データ科学とマネジメント」, 「情報科学の最前線」, 「プロジェクト研究」) (※2) 融合履修モデルを選択した学生は, 他学部で開講される20単位を選択必修科目の単位として読み替えることができる。</p>														
<p>自由選択科目 (修了要件として14単位まで算入可)</p>														